

【協議事項】

1 指定暴力団四代目福博会の第9回指定について

（暴力団対策部）

警察本部から「福岡市博多区に主たる事務所を有する四代目福博会について、暴力団対策法第3条各号の指定要件をいずれも満たしていることから、同法に基づき、指定暴力団として9回目の指定を行いたい。本指定について御審議をお願いする。」旨の説明があった。

公安委員から「福博会の勢力は、前回指定時と比較して衰退しているのか。」旨の発言があり、警察本部から「福博会の勢力は、3年前の前回指定時と比較して減少している。」旨の説明があった。

公安委員から「当該団体は指定要件を満たしていることから、所定の手続きを進めてもらいたい。」旨の発言後、本件は了承された。

2 警察職員の特別派遣について

（警備部）

警察本部から「令和6年能登半島地震に伴う災害警備活動に従事するため、石川県公安委員会から本県公安委員会に対し、警察職員の特別派遣について援助の要求がなされたことから、御審議をお願いする。なお、本日から特別自動車警ら隊を派遣したので、併せて報告する。」旨の説明があった。

公安委員から「警察車両の積雪対策は行っているのか。」旨の発言があり、警察本部から「スタッドレスタイヤやチェーンを準備しており、今のところ現地での活動に問題はないとの報告を受けている。」旨の説明があった。

公安委員から「本県の警察車両は、冬季仕様になっているのか。」旨の発言があり、警察本部から「県内でも、積雪等が想定される地域で活動する警察車両はスタッドレスタイヤを装着するなどしている。」旨の説明後、本件は了承された。

【報告事項】

1 監察関係報告について

（警務部）

警察本部から「第一に、大牟田警察署員による大麻取締法違反事案について、1月26日付けで当該職員を懲戒処分の免職とする。第二に、第二機動隊員による

窃盗事案について、同日付けで当該職員を懲戒処分の停職6月とする。第三に、警察学校初任科生による占有離脱物横領等事案について、同日付で当該職員を懲戒処分の停職6月とする。」旨の報告があった。

公安委員から「大牟田警察署の事案について、平成30年から採用されている会計年度任用職員ということであるが、私生活等の問題は把握されていなかったのか。」旨の発言があり、警察本部から「当該職員についても他の職員と同様に身上把握に努めていたが、私生活等での問題は特に把握されていなかった。」旨の説明があった。

公安委員から「大麻の種はどのように入手したのか。」旨の発言があり、警察本部から「現時点で入手経路は判明していない。」旨の説明があった。

公安委員から「警察学校の事案について、採用時の適性検査が緩くなっていることはないのか。また、警察学校では学生の自主性を重んじていると聞いているが、適性がない者が残った結果、非違事案を起こしているのではないか。」旨の発言があり、警察本部から「採用時の適性検査はこれまでと同様、適正に行われていると考えている。また、警察学校においても職責を自覚させるための指導教養等を徹底している。」旨の説明があった。

公安委員から「警察官になるための教養を今まさに受けている学生が非違事案を起こしていることを踏まえれば、指導教養に対して受け身であったり、自発的な反省ができていないのではないか。」旨の発言があり、警察本部から「委員御指摘のとおりであり、こうした現状を真摯に受け止め、警察職員としての誇りや使命感、倫理観のかん養について、より一層努めていく。」、「警察学校における指導方法等が変わってきている部分はあるが、新任配置先の警察署等でも身上指導等に取り組んでいる。」旨の説明があった。

公安委員から「県民の信頼を損ねる行為であり、報道対応も適切に行ってもらいたい。」旨の発言があり、警察本部から「監察官室と広報課で連携し、適切に対応する。」旨の説明があった。

公安委員から「職員への指導教養を徹底するとともに、特に若い職員による非違事案を防止するための取組にも力を入れてもらいたい。」旨の発言があった。

2 令和5年度第3四半期における監察実施結果について

(警務部)

警察本部から「令和5年度第3四半期において、警察本部・執行隊4所属及び警察署17所属に対して総合監察を実施するとともに、警察署、交番等に対して延べ118回の随時監察を実施した。総合監察の良好事項としてメンタルヘルス対策の推進、指導事項として私的管理金の管理不徹底があり、随時監察の指摘事項として留置施設巡回における不適切行為があった。」旨の報告があった。

公安委員から「メンタルヘルスについては、官民を問わず様々な取組が推進されているところであるが、ストレスチェックや研修などについては各所属が独自に取り組んでいるのか。」旨の発言があり、警察本部から「総合監察の良好事項は、所属が独自に産業医を招いて研修会を行ったものであるが、定期ストレスチェック自体は県警察全体で実施し、必要に応じて保健師による面接を実施している。」旨の説明があった。

公安委員から「ストレスを抱えていると判定された職員は増加傾向にあるのか。」旨の発言があり、警察本部から「高ストレスと判定された職員は、例年、職員全体の約5%前後で推移している。」旨の説明があった。

公安委員から「総合監察の評価は、ランク分けされているのか。また、総合監察は事前に連絡しているのか。」旨の発言があり、警察本部から「総合監察の結果は、特に良好、良好、指導、指摘の4段階評価となっている。総合監察の実施については、対象所属に対し事前に連絡している。」旨の説明があった。

3 令和5年中における110番通報の状況について

(地域部)

警察本部から「令和5年中における110番通報の総受理件数は、約57万4,000件で、前年比約3万6,000件の増加であった。このうち、酔っ払いによるいたずら等、いわゆる不要不急の通報は約19万件と全体の3分の1を占めており、毎年1月10日の「110番の日」には広報を行い、不要不急の110番が少しでも減少するよう県民にも協力を呼びかけている。一昨年に導入した110番映像通報システムの活用件数は約580件であり、行方不明者の早期発見等につながっている。110番通報は県民の生命等の保護に直接かかわる緊急通報であり、今後とも迅速かつ的確な対応に努めていく。」旨の報告があった。

公安委員から「地区別の人口比率を考慮しても、福岡地区の受理件数が突出して

多いのはなぜか。」旨の発言があり、警察本部から「福岡地区の受理件数が多いのは、交通事故の発生が多いことや繁華街の規模が大きいことなどが影響していると思われる。」旨の説明があった。

公安委員から「インバウンドの影響で、来日外国人からの110番通報も増えているのか。」旨の発言があり、警察本部から「日本語を話すことができない外国人からの110番通報は前年比で約10倍となっており、多言語コールセンターを活用し対応している。」旨の説明があった。

公安委員から「110番映像通報システムの活用件数は、まだ少ないのではないか。」旨の発言があり、警察本部から「110番映像通報システムを活用した好事例と併せて広報を行うなど、活用促進に向けて引き続き取り組んでいく。」旨の説明があった。

4 美容専門学校における業務上過失致死傷事件の検挙について

(刑事部)

警察本部から「柳川警察署及び捜査第一課は、令和5年5月24日、柳川市所在の専門学校内で学校行事として行われたバーベキュー大会において、コンロ内の炭にアルコールを注ぎ入れたところ、被害者4人に火が燃え移り、同年6月6日、被害者が多臓器不全により死亡するなどした業務上過失致死傷事件について、1月19日、柳川市居住の理事長の男性ほか2人を任意送付した。」旨の報告があった。

公安委員から「アルコールは、どのくらい注ぎ入れたのか。」旨の発言があり、警察本部から「ポリタンク入りのアルコールを一掛け分注ぎ入れたものである。」旨の説明があった。

5 危険運転致傷事件被疑者の逮捕について

(交通部)

警察本部から「早良警察署及び交通捜査課は、令和5年11月10日午後10時45分頃、福岡市早良区の国道上において、それぞれ車両を運転中、被害者運転の普通自動二輪車の通行を妨害しようとして共謀し、被害車両の後方から著しく接近したほか、被害車両の前方において、急減速の上、幅寄せ等を行い、自車に被害車両を衝突させ、被害者を負傷させた危険運転致傷事件について、1月24日、福岡市早良区居住の無職の男性ほか2人を逮捕した。」旨の報告があった。

公安委員から「交通事故等の結果が生じなかった場合でも、危険運転として積極的に捜査しているのか。」旨の発言があり、警察本部から「県警察ホームページからもあおり運転等に関する情報提供を受け付けており、悪質・危険運転対策室を中心に捜査等を行っている。」旨の説明があった。

公安委員から「ドライブレコーダーの普及により、以前よりも証拠が集めやすくなっていることから、悪質・危険運転に対する徹底した取締りを願います。」旨の発言があった。